

行事案内

第103回博物館文化講座

- 「沖縄の食制について」

講師：金城須美子(琉球大学助教授)

特別講演会

- 「近代日本の民間学と沖縄」

講師：鹿野政直(早稲田大学教授)

(いずれも入場無料)

企画展

- 新収蔵品展

4月16日(出)～5月8日(日)

琉球猪

鋭い牙と長い鼻という独特の風貌をした猪は、県下の数少ない哺乳動物の代表的なものである。リュウキュウイノシシと呼ばれているこの猪は、沖縄島・石垣島・西表島に現存しています。かつて貝塚人が家畜として持込んだものであると考えられておりましたが、化石が発見されたことで、この事は否定されました。化石としての猪、飼育されていたのではないと思われるほど多量に出土する貝塚時代の猪、それに現存する猪と、それらは同種なのか、あるいは別種なのか、その関連性はまだわかっておりません。猪が琉球列島へ渡ってきたのはいつの時期で、どの経路だったのか…その異様な容姿の中に何かを秘めているはずである。猪年に因み、沖縄産の雌雄成獣と西表島産の雌雄成獣とウリ坊2頭の剥製標本がそろいました。猪に古代の沖縄について思いをめぐらしてはどうでしょうか。

特別展——熊本県・沖縄県交流展——

「熊本県の歴史と文化」開催される。

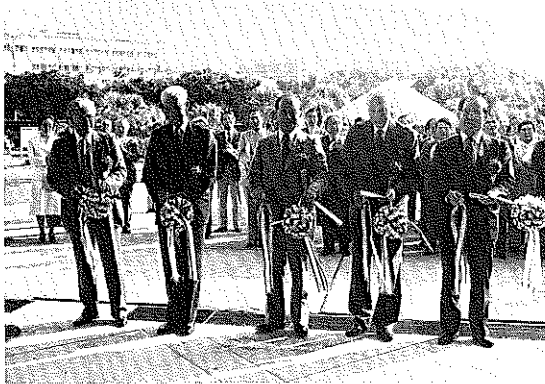
熊本県と沖縄県は、早くから親近感をもって往来してきた。特に第二次大戦中は、戦場と化した多くの沖縄県民が疎開し、親身の世話を受けて以来交流が続いている。

その後、都市交歓会あるいは、少年の船を通じたの交流があり、昭和47年5月、沖縄県の祖国復帰を機会に「熊本・沖縄県連絡協議会」がつくられ現在に至っている。

昭和56年5月の第10回熊本・沖縄県連絡協議会において、沖縄県から「両県の美術館や博物館の収蔵品を交換展示」することが提案され、熊本県もこれに賛同し今回の特別展が実施されることになった。

これを受けて熊本県立美術館と沖縄県立博物館が窓口となって、数回の実務担当者会議をもち、展示構想がねられた。その結果テーマを「熊本県の歴史と文化」と設定し、熊本県の自然・考古・歴史・美術を紹介することになった。

展示内容は第1室は「歴史」で自然から始まった。このコーナーは阿蘇山を中心とする豊かな熊本をカラーパネル写真で紹介し、ヤマメ、オオサンショウウオなど熊本県の特徴ある動物等の実物資料が熊本市立博物館の全面的な協力により展示された。

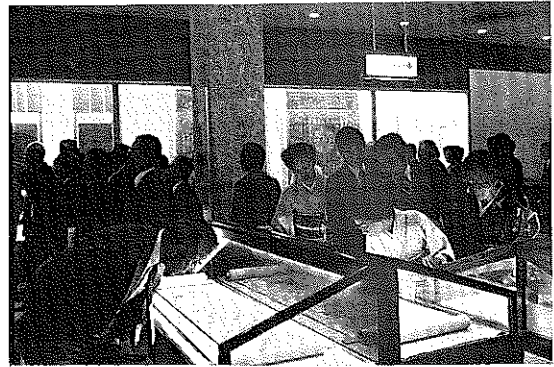


テープカット

考古資料は熊本県文化課と県下の市町村によって、発掘調査された膨大な資料から選りすぐった、先史時代・縄文・弥生・古墳・中世にまたがる資料6百点余が展示された。また慶応大学からも沖縄とつながりのある曾畑式土器が出品展示された。

歴史資料は、仏象・仏画をはじめ、信長、秀吉、家康、光秀、清正、細川ガラシャといった、日本歴史上著名な人物の書状等が展示され注目を引いた。

第2室は「大名のくらし」と銘打ち、肥後藩主細川家伝来の国宝4点を含む武器・武具や茶器・能面、能装束などが展示され、沖縄でははじめての質の高い資料が集中して展示されたため、最も人気を集めた室となった。



会場風景

第3室は「肥後の美術工芸」とし、宮本武蔵から矢野派までの絵画、小代、八代、網田焼等の秀作と細川家伝来の琉球漆器等が展示された。

その他1階ロビーには、黒塗牡丹唐草文蒔絵女乗物が展示され、2階ロビーは疎開中やその後の交流を示めす、手紙・写真・新聞記事等を展示する「疎開コーナー」が設けられ好評を得た。

この特別展には熊本県からも関係者が訪れるなど旧交を温める光景をみられ、話題をあつめた。入館者総数は27,000人で決して多い数ではないが、内容のある展示ということで入館者からは好評であった。

この特別展には、永青文庫をはじめ、熊本県の各文化財所有者と関連する公共機関の全面的な協力で実現できたことである。

現在、今年11月熊本で予定されている「沖縄の美術工芸展」への準備が着々と進んでいる。この交流展が両県の友好を一増強く継続して、相互の文化の発展に寄与すれば幸いである。

昭和58年沖縄県・熊本県交流展

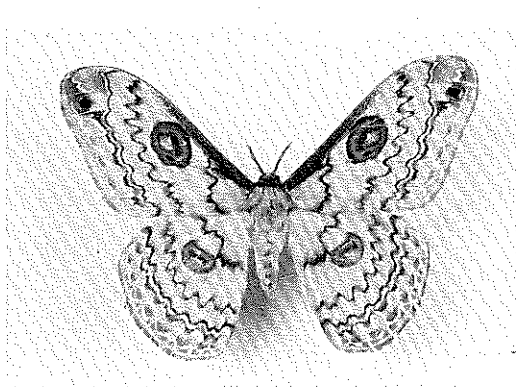
1. 名称：「沖縄の美術工芸」
2. 期間：11月8日(火)～12月11日(日)
3. 会場：熊本県立美術館
4. 内容：沖縄の自然史、民俗、美術工芸や疎開時の資料など約300点を展示し、沖縄県を紹介する。

資料紹介

動物

—琉球大学農学部昆虫教室寄贈の昆虫標本—

本県は、他府県ではみることができない豊かな固有の昆虫相を有しており、27目約3,400種類の昆虫が分布するといわれている。このたび、琉球大学農学部昆虫教室東清二教授の研究用昆虫標本の一部が、当館に寄贈された。標本は、16目721種1,920頭の沖縄県産の昆虫類からなり、県内に普通にみられる昆虫類はほとんど含まれている。台所など家の周辺でよくみられるワモンゴキブリや八重山の森林内に生息しているヤエヤママダラゴキブリなどのゴキブリ類9種14頭、沖縄の染織や手工芸にみられるような美しい色彩と模様をそなえているハグルマヤママユをはじめとするガ類166種296頭、子供たちに親しまれているオキナワノコギリクワガタや珍種とされるチャイロマルバネクワガタなどの甲虫類239種849頭、どれをとっても貴重なものばかりである。寄贈された標本の大部分は、琉球大学の東清二教授と金城政勝助手等が永年にわ

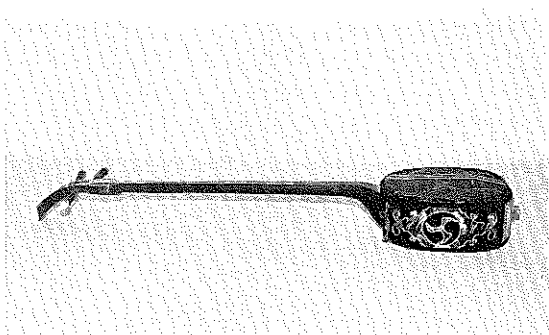


ハグルマヤママユ

たって苦勞して収集したものである。標本は、研究用として保管すると同時に児童生徒の学習等に広く利用する予定である。

資料紹介

民俗

—尚家より寄贈の「三味線盛嶋開鐘」^{もりしまけじょう}—

三味線盛嶋開鐘

王家伝来の三味線の名器が、去る11月1日当館へ寄贈された。贈り主は、旧所蔵者の尚裕氏。当日は、夫人の啓子さんから新垣教育長に手渡された。

この三味線は、沖縄戦で焼失したと伝えられて

いたが、戦火をくぐってある篤志家によって保管されていたのである。それが去る夏、尚家との間に有償返還の話がまとまり、この機会にというので寄贈となったもの。尚氏は「沖縄の三味線は、沖縄にあってこそ意義がある。つねづね県民にお世話になっているお礼に県立博物館に寄贈し、県民の財産としてほしい」という趣旨で、今回の寄贈となった。その仲介の労をとったのは、宮里春行氏と又吉真三氏である。

盛嶋開鐘は、戦前の五開鐘の一つで、名器中の名器といわれた作器である。心裏に「盛嶋開鐘」と朱漆で書かれている。開鐘とは、真壁型三味線の名器につけられた名で、音色がよく、寺院の明けの鐘になぞらえてつけた敬称である。棹は細身で、形は優美である。製作年代は18世紀中期ごろと推定され、現存する数少ない名器の一つである。

当館では、4月16日から開催予定の「新収蔵品展」で一般公開を計画している。

—特別講演会—

「港川人と日本人の起源」

—講師に鈴木尚氏(東京大学名誉教授)—

昭和42年、沖縄県具志頭村港川の石切場から多数の動物化石とともに人骨が発見されました。数回の発掘を経て、昭和57年その研究成果が報告されました。当館では、昭和58年2月12日、先生が来沖されたのを機会に上述のテーマで講演をしていただきました。以下は、講演要旨からの抜粋であります。「……アジアにおいて港川人に比しうる新人は、華北の上洞人のほか華南の柳江人があるが、種々検討してみると、港川人は上洞人よりも柳江人により強く類似している。更に年代を新しくしても、やはり華北の新石器時代人よりも華南からインドシナにかけての先史人によく似ている。

一方、日本本土の洪積世人は破片ながら港川人

とよく似るばかりでなく、縄文時代の形質も基本的には港川人のそれと大筋において一致している。

以上のことから考えると、洪積世の終り頃(2~3万年ほど前)に存在したと信じられる中国大陸と沖縄、本州とを連ねる陸橋を、その頃、華南からインドシナにかけて分布していたモンゴロイドの祖先が、ナウマン象などの動物を追って、一部は沖縄に上陸、他の一群はさらに陸橋を北上して、日本本土に達したのであろう。そしてたぶん今から1万年も昔、氷河期が終ると、それぞれ現状のような島に封じこめられてしまった。縄文人もこの意味の祖先の末えいであったろう。」

昭和58年度
博物館文化講座予定一覧

◆博物館資料寄贈者名簿(敬称略)
(昭和57年10月~昭和58年3月)

回数	月 日	テ マ	講 師
104	4月23日(土)	蔡温とその政策	田里 修 (浦添市史編集嘱託)
105	5月28日(土)	王朝時代の琉球漆器について	前田 孝允 (漆芸家)
106	6月25日(土)	沖縄の地名	名嘉 順一 (那覇商業高校教諭)
107	7月9日(土) ~10日(日)	史跡めぐり(宮古島)	知念 勇 (当館主任学芸員)
108	7月30日(土)	昆虫教室	長嶺 邦雄 (松島中学校教諭) 他 昆虫同好会
109	8月14日(日) 8月21日(日)	陶芸教室	宮城 勝臣 (陶芸家)
110	9月17日(土)	星の話	東盛 良夫 (琉球大学助教授)
111	10月22日(土)	ヒマラヤの風土から	目崎 茂和 (琉球大学助教授)
112	11月26日(土)	弥生前期土器を出土した真栄里貝塚について	高宮 廣衛 (沖縄国際大学教授)
113	12月17日(土)	近世沖縄の海運と商活動	高良 倉吉 (県史料編集所専門員)
114	昭和59年 1月28日(土)	沖縄の獅子(シーサー)	長嶺 操 (奥南高校教諭)
115	2月25日(土)	沖縄の両生・ハ虫類	当山 昌直 (当館学芸員)
116	3月24日(土)	那覇の今昔	崎間 麗進 (県文化財保護審 議会専門委員)

数多くの方々から、たくさんの資料を寄贈していただきました。博物館資料として大切に保存・活用させていただきます。今後とも本館の充実のために御協力下さいますようお願い申し上げます。

【地学】高嶺朝誠(兒化石、那覇市)、根本哲次(鹿角化石、那覇市)、熊本市立博物館(阿蘇山産輝石安山岩他5点、熊本市) 【動物】出納幸人(タイマイ剥製、大里村)、喜久里教達(マダラトカゲモドキ他1点、那覇市)、宇都宮好子(オットンガエル他1点、広島市)、琉球大学農学部昆虫教室(オキナワツノトンボ他沖縄産昆虫1,920点)、堀繁久(サキシマハブ他1点、那覇市)、宮城邦治(スマガエル他8点、宜野湾市) 【民俗】尚裕(三味線盛鳴開鐘)、吉戸直(模合帳箱他2点、那覇市)、宮城嘉明(ヒーラ他1点、浦添市)、比嘉春美(汁杓子他1点、那覇市) 大城龍昭(土偶他2点、宜野湾市)、西来院(守護札)、大山朝英(壺型厨子甕他1点、那覇市) 【美術工芸】具志堅政治(世持橋勾欄羽目破片、那覇市)、大城チネ(宮古上布着物、那覇市)、吉戸直(青磁大皿他7点、那覇市) 【歴史】伊藤勝一(小学校用地誌他9点、京都市)、吉戸直(書状写、那覇市)

昭和58年度
企 画 展

新収蔵品展：4月16日(土)~5月8日(日)
琉球の漆器：5月17日(火)~6月12日(日)
移動博物館：(平良市) 5月20日(金)~5月22日(日)
夏休みこども動物
植物学習室：7月26日(火)~9月4日(日)
標本鑑定会：8月28日(日)

沖縄県立博物館だより No.15

発行年月日 昭和58年3月15日

編集・発行 沖縄県立博物館

住 所 〒903 那覇市首里大中町1-1

TEL 0988-86-4353
84-2243